



今回の発掘調査で見つかった遺構・遺物の主な時代



栗山 A 遺跡と周辺遺跡 (遺跡地図は「富山県GISサイト/地理院地図」を利用し、一部改変)

- 1：友杉遺跡（弥生・古墳・古代・中世・近世） 2：任海宮田遺跡（縄文・古墳・古代・中世・近世）
3：吉倉 B 遺跡（縄文・古代・中世・近世） 4：南中田 D 遺跡（縄文・古代・中世・近世） 5：伊豆宮古墳（古墳）



全景写真（北西から）

令和 7 年 11 月 8 日（土）
（公財）富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査課
国土交通省北陸地方整備局
富山河川国道事務所

富山市

栗山 A 遺跡説明会

当財団では大沢野富山南道路事業に伴い、国土交通省富山河川国道事務所からの委託を受けて、栗山 A 遺跡の発掘調査を実施しています。

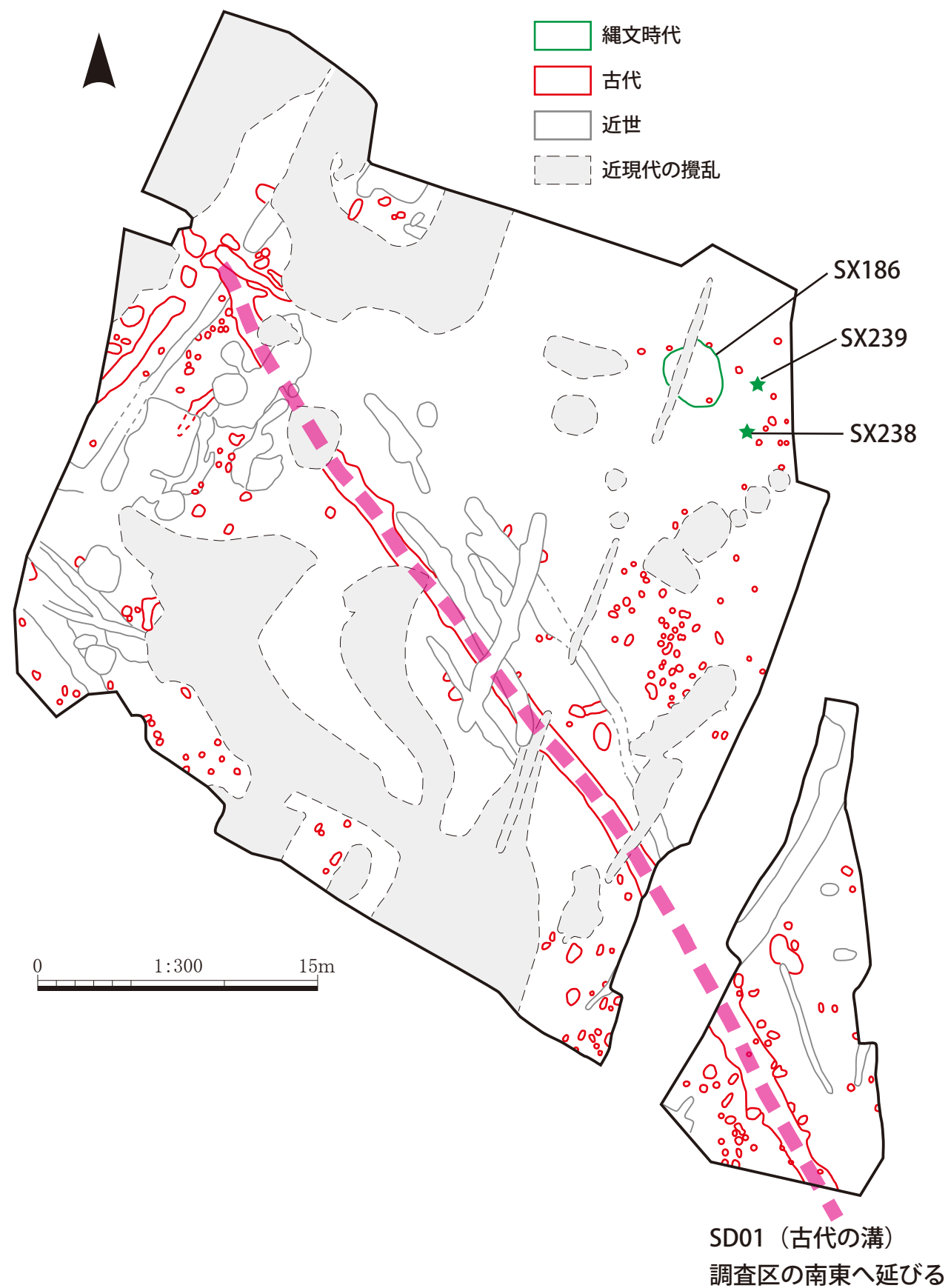
遺跡は神通川右岸の扇状地上に位置しています。これまでの調査によって、縄文時代（晩期）・古代・中世の遺跡として知られており、今回の調査でも、同様な時代の遺構や遺物が見つかりました。

縄文時代は晩期（約 3,000 年前）の土器が集中する場所を調査区北東部で 3 箇所確認しました。縄文時代中期頃までは丘陵地や台地上を主な生活の場としていましたが、後期以降には平野部にも活動の場を広げていくとされています。今回出土した土器もそうした様子を示していると考えられます。

古代（奈良・平安時代：約 1,300 ～ 1,100 年前）では溝や土坑が確認され、土師器や須恵器が出土しています。溝では S D01 が調査区の北西から南東に向かって直線的に掘られ、調査区南東の外側に延びています。土坑も多く検出されましたが、建物を構成するような配置は確認できていません。調査区よりも南側の遺跡範囲内では、これまでの調査で古代の堅穴建物などが確認されていることから、集落の中心はそちらにあり、S D01 はその周囲を区画していた可能性が高いと思われます。

この他に中近世の土器や陶磁器も出土していますので、長い期間に渡って人々が生活していた場所であったと言えます。

大沢野富山南道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は今後も実施してまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



栗山A遺跡遺構全体図（1：300）



S D01（南東から）



S D01 土層断面（南東から）



S X186 土層断面（東から）



S X239 縄文土器出土状況（北から）



縄文土器



古代の土師器・須恵器



作業風景

情報随時更新中!!

（公財）富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査課
のホームページはこちら



富山河川国営事務所
大沢野富山南道路
のホームページはこちら

